



(公財) 北農会・編集

北の大地に挑む農業教育の軌跡

(一財) いも類振興会 理事長 狩谷 昭男

北海道内で農業試験成果の普及を担う北農会を中心とした「北海道における農業教育の軌跡編集委員会」は、2013年10月に、道内の農業教育の変遷とその史料をまとめた『北の大地に挑む農業教育の軌跡』を刊行した。本書は、北海道開拓から140年にわたる農業に関わる人材育成の歴史を後世に伝えることを目的として、北海道の農業教育史を体系的にまとめた労作である。

全体の構成は、次の4編から成る。

第1編 北海道農業教育史の概要

第1章 時代区分による農業教育史の概要（通史）

第2章 北海道農業に影響を及ぼした教育及び教育論

第2編 北海道農業教育の系譜別のあゆみ

第1章 学校教育と施設教育

第2章 農業研修事業（施設教育・生涯学習教育）

第3章 農業研究と普及・指導事業の推移

第4章 近年の農業教育者・農業担い手育成の取組

第3編 各教育・研修機関の創設者・指導者の苦闘の記録、卒業生及び研修生の思い出・活躍の記録

第4編 関連付表など

本書の中で馬鈴薯に関する解説としては、第2編第1章の13で農林省馬鈴薯原原種農場で実施されていた「馬鈴薯採種技術練習生」あるので、紹介しておこう。

農林省は連合国軍総司令部（GHQ）の助言もあって、1947（昭和22）年に馬鈴薯原原種農場を全国に7ヵ所設置した（北海道4、青森・群馬・長野県各1）。この原原種農場を頂点とした馬鈴薯採種事業を運営するうえで、馬鈴薯採種栽培の熟練技術者を必要としていたが、当時、その技術者は不足していた。

このため、各馬鈴薯原原種農場では1948（昭和23）年度以降毎年、馬鈴薯採種技術練習生を募集し（本科は2年間の修業期間、別途に専攻科1年間）、馬鈴薯採種技術者を養成した。この技術練習生制度は、1958（昭和33）年度で終了したが、地域の要望が強かった原原種農場では実質的に1962（昭和37）年度まで継続された。北海道に所在する原原種農場では、通算13年間で134名（うち中退者7名）の修了生を送り出している。

馬鈴薯採種技術練習生の中には、馬鈴薯の増産と採種体系整備のために、馬鈴薯原原種農場の職員として採用された者もいた。また、馬鈴薯作や畑作振興のために、行政、試験研究機関、農業改良普及事業、農業団体の採種事業の技術者としても、大きな役割を果たしたのである。

発行：（株）北海道協同組合通信社（TEL:011-231-5261）、
定価：2,857円＋消費税、送料600円、A4判、450頁。